

「藤沢地区郷土づくり推進会議」広報紙

明日を創る

発行 藤沢地区郷土づくり推進会議
事務局 藤沢公民館
電話 0466-22-0019
FAX 0466-22-0293

ご挨拶 郷土づくり推進会議議長 廣瀬 宣昭

日頃より地域の皆様には藤沢地区郷土づくり推進会議の活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。
藤沢地区郷土づくり推進会議は令和2年4月より地域団体選出委員及び、公募委員によって新たに始動し地域の意見集約や地域課題の解決にむけ、市への提案や提言をおこない、皆様と共に住みよいまちづくりを推進してまいりたいと思っております。
今後とも引き続き、地域の皆様方のご理解ご協力のほどよろしくお願いたします。



藤沢地区全体集会

12月14日、Fプレイスで藤沢地区全体集会を開催、郷土づくり推進会議の1年間の取り組みについて推進、活動両部会長より報告が行われ、会場にお越しの皆さんと情報共有しました。



推進部会からは市長に提出した「藤沢宿活性化と行政施設のあり方」の提言内容と市からの回答と回答を受けての今後の方針について、続いて既に提出している政策提言「藤沢宿見える化」の事業進捗報告をしました。

活動部会からは「子どもの見守り活動事業」「子どもの見守り情報交換会」の開催予告、公民館まつり等での「地域住民・組織との交流」について報告しました。

意見交換会では「歴史的建造物や文化の伝承について長いタームでの視点で魅力あるまちづくりを…」「トランスボックスは高い評価」、「子どもの居場所確保や地域パトロールの必要性」「まち活性化のための施策」等についてのご発言を頂きました。また皆さんからのアンケートでは「活動内容や成果の地域への伝達」「歴史と文化のバランスを持った取り組みを…」「歴史と文化が息づく藤沢地区の最終目標はどんな姿か、個々の推進・改革から全体像への話合いの時期になる」「推進会議が自己よがりにならない様に」「子どもの居場所確保やフリースペース」等々のご意見がありました。

郷土づくり推進会議では頂いたこうしたご意見を参考に更に良い藤沢地区づくりに努めて参ります。

令和元年度活動報告 (活動部会 & 推進部会)

政策提言「藤沢宿活性化と地域行政施設のあり方」の回答を頂きました

6月5日市長に政策提言を提出、9月13日に回答書を頂きました。

提言に対する市からの回答(概要)と推進会議としての今後の取り組みについては以下の通りです。

★ 提言1 「歴史的建造物とその敷地に関する固定資産税の軽減措置」

歴史的建造物所有者への税軽減と建築申請時の指導について提言しました。

(市からの回答)

地方税に於いて文化財保護法に規定する登録有形文化財等に対する軽減措置が設けられている事から今後も登録有形文化財への登録を支援していきます。歴史的建造物維持保全、活用については既存の諸制度を用意し、蔵や町屋等でのイベント開催支援、建築申請時におけるガイドラインに基づいた誘導を行っていきます。



(推進会議の対応)

歴史的建造物に対する税の軽減措置が採られている自治体が多く、引き続き提言に沿った支援が頂ける様行政へ協力依頼する等、取り組んで参ります。

★ 提言 2 藤沢宿見える化の推進課題の具体化

平成21年1月提出「藤沢宿を形に残す“藤沢宿見える化”」提言について提言趣旨に添って事業を進めて頂いていますが、提案課題の一層の推進とトランスボックス等新たな課題についての推進を提言しました。

(市からの回答)

藤沢652、471、394号線について沿道景観に配慮し、路側帯カラー化舗装を行います。トランスボックスラッピングについては所有する事業者等と協議を進めています。スローガン「歩いて見よう 藤沢宿」は様々な機会にアピールしていきます。弁慶塚は段階的に整備を行っていきます。藤沢橋交差付近の休憩設備について県土木事務所へ申し入れます。

(推進会議の対応)

藤沢宿のイメージ付けとして安全な車歩道やここが藤沢宿だと分かる案内標示等の行政への働きかけを更に進めて参ります。

★ 提言 3 公民館閉鎖後の地域要請に即した建造物の早期再築

歴史を刻んできた旧公民館は歴史伝承する建物の早期建設を提案しました。

(市からの回答)

「藤沢市公共施設再整備基本計画」「藤沢市公共施設再整備プラン」の考えに基づき南消防署本町出張所再整備事業における仮設出張所の用地として有効活用する方向で考えています。再整備完了後は他の公共施設の再整備やインフラの整備の進捗状況等を踏まえながら検討を進めて行きたいと考えています。

(推進会議の対応)

平成24年政策提言「生涯学習拠点としての藤沢公民館のあり方」にもとづいて2019年4月にFプレイスが竣工し、旧公民館がお役を終えましたが、市の発祥施設であり教育発祥の地でもある。そうした歴史を残す施設の建て替え要請を引き続き検証して参ります。

★ 提言 4 南消防署本庁出張所の建て替えは地域特性にあったものに

現建物は築50年経過した施設で、南海トラフ等の課題も出てきており、併せて市民救出活動や職員の安全確保面から建て替えと地域にあった施設建設を提案しました。

(市からの回答)

出張所改築に関してはご意見を参考にさせていただきます。

(推進会議の対応)

藤沢宿の街道際にある施設であり引き続き市と連携をした取り組みを進めて参ります。

★ 提言 5 済美館一階フロア利用について

済美館は多くの方々が利用する施設であり、藤沢宿の情報発信施設として一階フロアの利用について提案しました。

(市からの回答)

今後とも展示スペースを確保し情報発信に努めて参ります。

(推進会議の対応)

今後とも藤沢宿発信に役立つ掲示等考えて参ります。



公民館まつりでの提言説明

★ 今年度提出の「政策提言」及び既に提出した「政策提言」の進捗状況



弁慶塚への登り口、中横須賀公園が整備されました。

常光寺裏手には弁慶塚があり、また樹齢を重ねた樹林があり、歴史を学ぶ場所として多くの皆さんが訪れます。

弁慶塚への急階段の安全整備と手摺り設置、樹林に囲まれた広場にはベンチが設置されました。

市道652号線(通称・北仲通り)の完成、及び交流館周辺(471号線、394号線)整備が進んでいます。

652号線は御殿橋周辺から遊行寺山門近くまで完成し、妙善寺前から遮熱舗装、路側帯カラー化で統一された道路になりました。

「交流館」周辺道路は電線地中化工事が進んでいます。



旧東海道の電線地中化に伴う歩道修復工事の第3期工事として昨年末に内田商店付近からJA藤沢支店先までの両側が完成、3年かけて遊行寺橋からJA藤沢支店先まで、藤沢宿通路イメージの石畳風仕様で、歩道から神社仏閣へ向かう石畳の参道と一つのトーンづくりとして完成しました。また歩道には神社仏閣への方向案内シートも付けられました。

石川線工事では国道1号線下歩行者トンネル、車道整備、伊勢山緑地工事も終了し、駐輪場整備へと進んでいきます。



「まちづくり懇談会」、11回目を開催しました。



藤沢宿活性化推進の為に藤沢橋から白旗間のお蔵の所有者や事業所、地域住民、町内会長の皆さんにお声掛けして開催してきた「まちづくり懇談会」も1月22日開催で11回目を迎えました。市長へ提出した「政策提言」への論議や「藤沢宿まちづくり」について話しあってきました。今回は昨年12月開催の「藤沢地区全体集会」の報告、「藤沢宿まつり」協力等について話し合われました。今後とも継続してより良いまちづくりを進めて参ります。

「藤沢宿まつり」協賛イベントの実施

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため「藤沢宿まつり」は中止となりましたが、大清水中学校美術部の生徒さんの作品を4月末まで「済美館」で展示します。この地で生まれ、学び、巣立つ中学生の作品展。描いた構想や描き終わった感想等々が記された作品です。絵画作成に当たって第一回勉強会はパワーポイントと「歩いて見よう 藤沢宿」冊子を利用した勉強会、第二回は第一回勉強会を受けて藤沢宿「まち歩き」をして素材作りをしました。



まちなか博物館「トランスボックス」の補修の時期

「多くの歴史散策の方、地域の方に藤沢宿を知って貰おう」と言う発想で2012年1月、電線地中化に伴う遊行ロータリーから藤沢橋間22基のトランスボックスに江戸時代の賑わいを描いた浮世絵等をラッピングし、街道を歩きながらトランスボックスを見て、地区の歴史を学ぶという「まちなか博物館」として好評を頂いてきました。直射日光や雨風で相当傷みラッピング張り替えの時期になり、政策提言でも張り替え提案をさせて頂いています。地区の歴史を学べるトランスボックスを皆で大切にしていましょ。



「ふじさわ交流館」HPで藤沢宿発信しています

7月より「ふじさわ宿交流館」HPに新たにブログ「わくわく藤沢宿通信」が新設され、「ふじさわ宿交流館」管内のイベントや季節の話題を発信し多くの皆さんに藤沢宿に来て頂こうと思っています。「ふじさわ宿交流館」HPトップから「わくわく藤沢宿通信」にアクセスして頂きアップされたブログをご覧ください。

藤沢宿の取り組みヒントを求めて「佐原宿」視察に行ってきました

11月14日「佐原伝統的建造物群保存地区の小野川沿い700m、香取街道沿い1000mに93軒の伝統的建造物が残るまち」の佐原に行ってきました。当日はNPO法人「小野川と佐原の街並みを考える会」理事長・佐藤氏より佐原地区の取り組み「重要伝統的建造物群指定に至る経緯等の取り組み」の説明、伊能忠敬旧宅はじめとした店舗蔵等のガイドをして頂きました。佐原は江戸時代に利根川東遷により水運流通経路として、支流の小野川は船運による河港商業地として栄え、東北地方から年貢米を江戸に送る穀物倉庫、酒造醤油の醸造業や、また江戸から呉服・日常生活品の卸・小売りの商業地として栄えたまち。

バブル時代は商店街は疲弊し、川は生活排水でにごり、汚い寂しいまち風景であったが、竹下時代の「ふるさと基金」で「佐原のまちを残そう」と住民に「街並み保存OA」を作成し住民との対話を続け、現在のまちに至っていると言う。

「売らない、貸さない、壊さない」「売っても良い、貸しても良い、しかし壊さない」、「建造物を活用することが活性化に繋がる」事を合言葉に「よみがえれ水郷の都市」を発信中とのことでした。平成8年から佐原地区を訪れる人が来るようになり、現在13万人の方が訪問されていると言う。佐藤理事長は金物屋を経営しており、佐原地区発展の為のまちおこし活動に尽力されています。



「子どもの見守り」情報交換会を開催しました



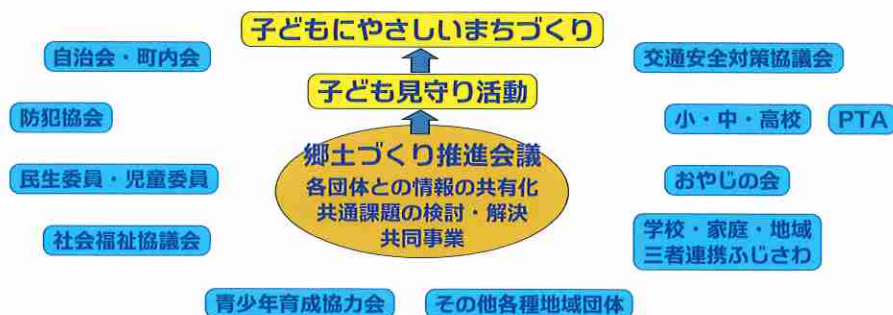
7月29日、2月19日の2回、藤沢公民館で藤沢地区の子どもの見守り関連組織・団体との情報交換会を実施しました。

小中学校の先生、PTA、保護者会の皆さんをはじめ地域内で活動している各団体の代表が集まりそれぞれの立場から子どもを取り巻く環境や地域の見守り活動の現状について紹介し合い、情報の共有を図ることが出来ました。

情報交換会の様子

★ 郷土づくり推進会議の見守り活動の役割

郷土づくり推進会議の強みは子ども見守りにかかわる地域団体の代表が集まっていること



地域の祭り・イベントへの参加

「遊行の盆」「公民館まつり」等へ模擬店を出店し、地域のイベントやまつりの活性化支援と住民の皆さんとの交流を行いました。毎年行っている鶏のドラム缶焼きは今年も好評でした。

7月27日(日) 遊行の盆

10月19日(土) 藤沢公民館まつり



「遊行の盆」出店風景



好評のドラム缶焼き